

5月1日
連載開始

経営者が語る自分史

「マイウェイ」に
マツオカ建機 代表取締役会長

松岡 美江子氏が登場!



建設機械などのレンタルを主力事業とするマツオカ建機の松岡美江子会長が登場します。夫であり先代社長の急逝を受けて、1999年に経理担当の取締役から社長に就任。56歳でした。中部地方の旺盛な建築・土木需要を背景に業容を拡大したほか、M&A(合併・買収)などを通じて事業の多角化も推進しました。2026年3月期のグループ売上高は社長就任当時に比べ4倍の約150億円に増やしました。半生を振り返ってもらいます。

裏面で第1話を先行公開!

著者企業紹介

マツオカ建機株式会社

本社：三重県四日市市

創業は1938年。1970年に建設機械などを扱うレンタル事業に参入し、72年に松岡咸商店からマツオカ建機に社名を変更した。2022年には、持ち株会社・ミライリスホールディングスを発足。傘下にマツオカ建機をはじめ9社を抱える。24年には建機レンタル最大手のアクティオと資本業務提携した。26年3月期のグループ売上高は約150億円。グループの従業員数は641人。



あなたならどちらで読む?

※紙版と電子版の併読プランはございません。

中部経済新聞



紙版
購読料金
月額 **3,950**円(税込)



※愛知・岐阜・三重の各県と静岡県浜松市にある
中日新聞販売店よりお届けします。

中経 中経オンライン
CHUKEI ONLINE



電子版
購読料金
月額 **4,510**円(税込)



※お申込みはオンラインのみです。右の二次元コード
または「中経オンライン」を検索して手続きください。

中経オンライン

経営者が語る自分史

「マイウェイ」

マツオカ建機 代表取締役会長

松岡 美江子氏

5月1日から
連載開始!

学びと実践の日々

私の夫で当時マツオカ建機の社長だった、松岡崑（たかし）が急逝したのは、1999年8月3日だった。享年61歳。超ワンマン社長が前触れなく亡くなったことで、社葬や新体制への移行準備などに追われる日々が続ぎ、悲しんでいるひまもなかった。

当時の私は肩書こそ取締役だったが、経理全般を担当する金庫番。経理以外の営業、製品開発、労務など社長任せだった。

非上場企業の社長選びは事業承継問題も含めて、人選に限られる。私が、最終的には金庫番から業務全般について意思決定を下す社長に就任することを決めた。

当社の主力事業は建設機械などのレ

マツオカ建機代表取締役会長

松岡 美江子 1



先代の急逝で緊急登板

ンタルだ。得意先は建設機械を扱う建設・土木事業者だ。従業員も男性中心で、昭和のおじさん文化だ。女性社長とすることで当初は戸惑いがなかったわけでもないが、先代の急逝に伴う緊急登板ということで、得意先や仕入れ先の皆さまに応援していただいたと思う。

ただ、経営は文字通り素人。56歳からの社長デビューで、経営とは何か真剣に向き合うことになった。座学や社外の研修などで文字通り「経営」を学びながら、実際に経営する日々だった。もっとも、経営の勉強と実践は想定以上に刺激的だった。偉大な経営者の

△プロフィール▽まつおか・みえこ
愛知県立岡崎商業高校卒。1968年松岡成商店（現マツオカ建機）入社。1999年社長就任。2018年から会長。岡崎市出身。82歳。

.....
まれた。中部電力（現JERA）の川越火力発電所や中部国際空港の開港、キオクシア（元東芝）の四日市工場の新増設など多くの工事の需要が急増した。

先代から社長を引き継いだころの売上高は約30億円だったが、マツオカ建機を含むミリリスホールディングスの売上高は約150億円（2026年3月期）と急拡大した。

私の人生や経営者の経験が女性社長や将来管理職をめざす女性にとって少しでもお役に立てばと思い、執筆することにした。2カ月程度、お付き合い

きた。もちろん、本社を構える三重県川越町の地の理、時の運に恵いただけたら幸いです。

筆者近影

きた。

